

こども教育会議 会議録

日時 令和元年5月15日(水) 16:00~17:00	場所 武雄市役所 4階会議室	出席 小松市長、浦郷教育長 教育委員(一ノ瀬、副島、大庭、馬場、岡本、松尾、田中、大渡、堀田) 松尾こども教育部長、牟田こども教育部理事 教育総務課(諸岡課長、杉原課長代理)、こども未来課(弦巻課長、野田参事)、学校教育課(竹内課長、百合参事、諸岡室長)、生涯学習課(山北課長)、文化課長(野口課長) 古賀企画部長 企画政策課(松尾課長、中村係長、富永、古川)
1. 協議件名		第19回こども教育会議 (教育大綱「組む」の改定について)

議事録

内容	<p>1 開会 (進行: 古賀企画部長)</p> <p>2 議事 (議事進行: 小松市長)</p> <p>(1) 教育大綱「組む」の改定について</p> <p>①話題提供</p> <p>⇒冒頭に、企画政策課から、教育大綱「組む」のこれまでの取り組みを説明し、その後出席者で新教育大綱について意見交換を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の教育大綱が、「つながる」という言葉ではなく、あえて「組む」という力強い言葉を大綱として決めたのは、立場が異なるものや、そもそも「組む」ことがなかったものを、組むことによって、より良いものを目指していこうとする強い思いの現れだったと思う。その教育大綱の意識が、「花まる学習会」、「子育て総合支援センター」、「笑顔のコーディネーター」などのキーマンをつくり、さまざまな人が「組む」という現状を作り出したのではないかと思う。今ある新たに作り上げた価値を、今後はさらに磨いていく必要がある。 教育大綱「組む」の下、子どもを中心に、家庭の支援や、将来を目指した子どもたちの支援を行ってきたが、今後は小学生、中学生に加え、高校生に裾野を広げていくことが必要であり、その出口のところで地元に残る若者たちの活躍できる場(就職支援など)を創出できるまちづくりに繋げていく必要がある。 全国的に見ると、いじめや、不登校、子どもの孤立感等が増加傾向にある。そこには様々な要因が考えられる。まずは、子どもの実態を把握して、共通理解を持てる場所があればいい。 今後は「組む」の浸透のステージではないか。浸透させるためには、化学反応が必要である。化学反応は、異なるものと異なるものによって、良い結果が生まれることにある。例えば、「小学校の保護者」と「高校の保護者」を組み合わせたらどうか。小学生の行く先には、高等教育があるので、その高等教育を早くから見せるとか。「産業」と「教育」の取り組みについても、今後、「産業」と「教育」が組むことによって、共に発展させることができるのではないか。 武雄花まる学園の取り組みによって、「学校」と「地域」と「家庭」をつなぐプラットフォームができた。もっとこのつながりが深まればいい。その中で、地域の方が積極的に子育てに関わってくれている一方、保護者である親世代が地域と関わっていない現状がある。働き盛りで仕方ないこともあると思うが、今後、「地域」と「家庭」がつながることができればいいと思う。 教育というのは、子どもだけでなく、地域も一緒に学ぶことによって、子どもの教育につながると思う。
----	--

例えば、あいさつや、ごみ拾い、譲り合いの心を育むといった基本的な教えによって、人づくりができる。地域が一つの学校になれば、郷土愛も生まれるし、地域で人をつくることにもつながるのではないか。

- ・ 今後は、学校教育の場のみならず、学校で習ったことを実体験できる仕組みができればいい。外国語教育について言えば、子ども達が外国人に触れ合う機会が増えれば、学校で学習している何倍もの効果が出るのではないか。キャリア教育についていえば、保護者の勤務先への職場体験によって、職業観や親子関係を築くことができたり、観光業におけるおもてなしの学習など、学校で学んでいることを実体験することで幅が広がると思う。
- ・ (これまでの「組む」の取り組みを踏まえ) これからは、「組みましょう」、「組もう」という、更に積極的な姿勢で取り組めたらいい。今実践していることを更に充実させてもらいたい。
- ・ (新大綱制定後) 次の4年間は、さらにレベルの高い「組む」に上げていきたい。今後は、組んだ後のベクトルを同じ方向に向け、効果を発揮させていくという視点が重要であり、「組む」をどうコーディネートしていくかが必要である。
- ・ (教育大綱「組む」の下) これまで実際にいろいろなところが「組む」ことができた。この経験を活かして、次の4年に何ができるか期待するところである。武雄市の教育については、働き盛りの保護者の状況もあって、地域の方に入ってもらい、地域の力によって、こども達を育ててもらえたという効果があったと思う。歴史的に見れば、地域のこどもは、地域で育てているところであり、武雄市についてもそういった視点で、成果を見ていかなければならない。

<市長の発言>

- ・ 困り感もなく、元気に学校に通っている児童を標準と見るのではなく、貧困や障がいなど、さまざまな子どもたちがいるという視点で教育の幅を広く捉えるイメージが今後必要となってくる。また、小学校や中学校に加え、高校生も対象とし、学校教育で括るのではなく、人づくりという概念で教育を考える必要がある。
- ・ 地域がまるごと学校になるというイメージで捉えていくことが必要。例えば、学校に地域の人が入り、学校の子ども達が地域に出るといったこともその手段であると思う。
- ・ これまでは、行政と誰かが「組む」という取り組みが主であったが、市内でも民間企業や団体、地域同士など、行政があまり関わっていないところで「組む」という動きが出てきているのではないかと思う。今後は、行政と誰かが「組む」ということだけではなく、地域であり、市民であり、民間、団体同士が「組む」というところを、市がサポートしていくことが、今後大事になってくるのではないか。

3 閉会 (進行：古賀企画部長)